

組	20	文法のまとめ	助動詞の意味・用法
番号			
氏名			

① 次の①～⑧の――線部と同じ意味・用法のものを、後から一つずつ
選ぶ「――」に記号を書きなさい。

① 妻は花粉症に悩まされつづけていました。

ア 春はゆっくりと南風に運ばれてきます。

イ 先生はにっこりと笑われました。

ウ 自分の失敗がたいへん悔やまれます。

エ 私はうれしくて眠れませんでした。

「ア」

② 海の汚染が進むと、自然の恵みを受けられなくなります。

ア 先生が家庭訪問に来られました。

イ 私は好き嫌いがないので、何でも食べられます。

ウ 仕事を手伝って、父にほめられました。

エ 秋の気配がなんとなく感じられます。

「イ」

③ こちらの作戦をよまれた。

ア 和解の交渉はこじれた。

イ とても楽観的な気分にはなれない。

ウ おとりに意識が縛られたのだ。

エ 話し合いの申し入れはない。

「ウ」

④ なんだかんだと争いが絶えない。

ア 話を聞く必要はない。

イ 今日は忙しくない。

ウ 宇宙は果てしない。

エ 明日は雨が降らない。

「エ」

⑤ 霧の中に浮かぶヨットのよう**に**ぼんやりと輪郭を失っていた。

ア 早く泳げるよう**に**なりたい。

イ 毎日必ず泳ぐよう**に**する。

ウ どうか泳ぎが上達しますよう**に**。

エ 水面を滑るよう**に**泳いだ。

「エ」

⑥ 卒業生はみんな幸福**そう**だった。

ア 彼は外国に留学する**そう**だ。

イ 友達はみんな泣き**そう**だ。

ウ **そう**だ、写真を撮ろう。

エ 明日は、雨になる**そう**だ。

「イ」

⑦ 雪の降る朝は静**か**だ。

ア もうすっかり春**だ**。

イ 旅行の準備が済**ん**だ。

ウ 明日の夜は晴**れ**そう**だ**。

エ 彼はいつでもさわやか**だ**。

「エ」

⑧ 母親かだれかからもらったのであ**ろ**う。

ア 急いで引き返しま**し**よう。

イ 今頃、さぞつら**か**ろう**と**思います。

ウ ぼく**ら**も一緒に行**こ**う**と**決心した。

エ さあ行**こ**う、元**気**だ**し**て。

「イ」

注 「れる・られる」の意味・用法四種類「受け身」「可能」「尊敬」「自発」のうち、「自発」は「自然とそうなる」の意味にあたるもの。
例 「」の写真を**見**ると、若いころの自分が思い出**さ**れる。「」